大津町議会 経済建設常任委員会行政調査

氏名 永田 和彦

視察研修名：大津町議会経済建設常任委員会行政調査

視 察 先：宮城県名取市、宮城県大和町

期 日：令和6年8月7日（水）～8日（木）

研修テーマ：名取市「なとり臨空タウン構想について」

大和町「半導体企業誘致におけるインフラ整備」

研修報告 意見・感想

【名取市について】

「杜せきのした」地域と「美田園」地域へ市役所職員の対応で現地視察を行いました。

名取市の全体像は宮城県が描いていて、「杜せきのした」地域は政令指定都市の仙台市と仙台空港の中間であり、空港鉄道と一体として商業地域として活性化させ、仙台市の一極集中を抑制し、宮城県全体のバランスを考えた、「県」と「市」で調整されていると考えられる。

駅からショッピングモールは連結されており、最先端のファッションや商品のトレンドを知る事が出来るため若い人達が集まり、市の活性化には十分のインパクトを感じた。

「美田園」地域は、東日本大震災で沿岸地域が甚大な被害を受け、住み替えの地域として人口が増えている。いまだに震災の影響が及ぼす全体への変化は予想できない形となっている。

駅周辺道路整備は進んでいて、高層ビル住宅群の建設が予定されており、人口予測と都市開発は空港鉄道の恩恵を今後も受けながら緩やかに発展すると考えられる。仙台市のベッドタウン的に思った。

今回の研修で空港鉄道について学びたかったのですが、県のグランドデザインが根底にあって名取市はそれに準ずる政策になっていると感じた。

【大和町について】

広大な工業団地について学んだ。町中心部を若干離れた緩やかな山間地域の開発で、農業地域の外側という幹線道路とさほど離れていない地勢的にも開発が容易な地域と感じた。

ただし、町は道路資本の重要性を早い時期から認識され、結果として時代の波に乗る形になったと考えられる。

町の課題は、人口減であり今後の対策は出来ていない状態であった。

企業も広大な用地を必要とする場合、問い合わせるのは県と思われ、ここも宮城県のグランドデザインの一翼を担っていると感じた。